

インターネットも、
のぞいてみよう。



熊本県はインターネット
博覧会「インパク」に、
ユニバーサルデザインを
テーマとして参加しています。
平成13年12月31日まで
ご覧になれますので、
ぜひ一度アクセスください！



ホームページアドレス

<http://www.inpaku.go.jp/kumamoto/>

インパクとは……現在、インターネット上で開催されている国際規模の博覧会です。
国・県・市町村・企業・一般の人たちが、個性あふれるテーマでホームページを開設中。
見たり聴いたり質問したり…いろんな情報をみんなと分かち合える絶好の場所です。

●お便り募集●

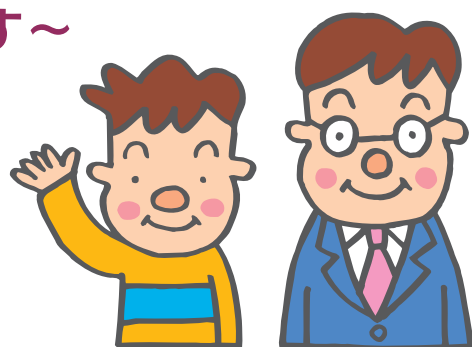
～ご意見、ご提案、お待ちしております～

ハガキもしくは、FAX、Eメールでもどうぞ！

ハガキ 〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1
熊本県企画調整課 パートナースhip企画室

FAX 096-382-4066

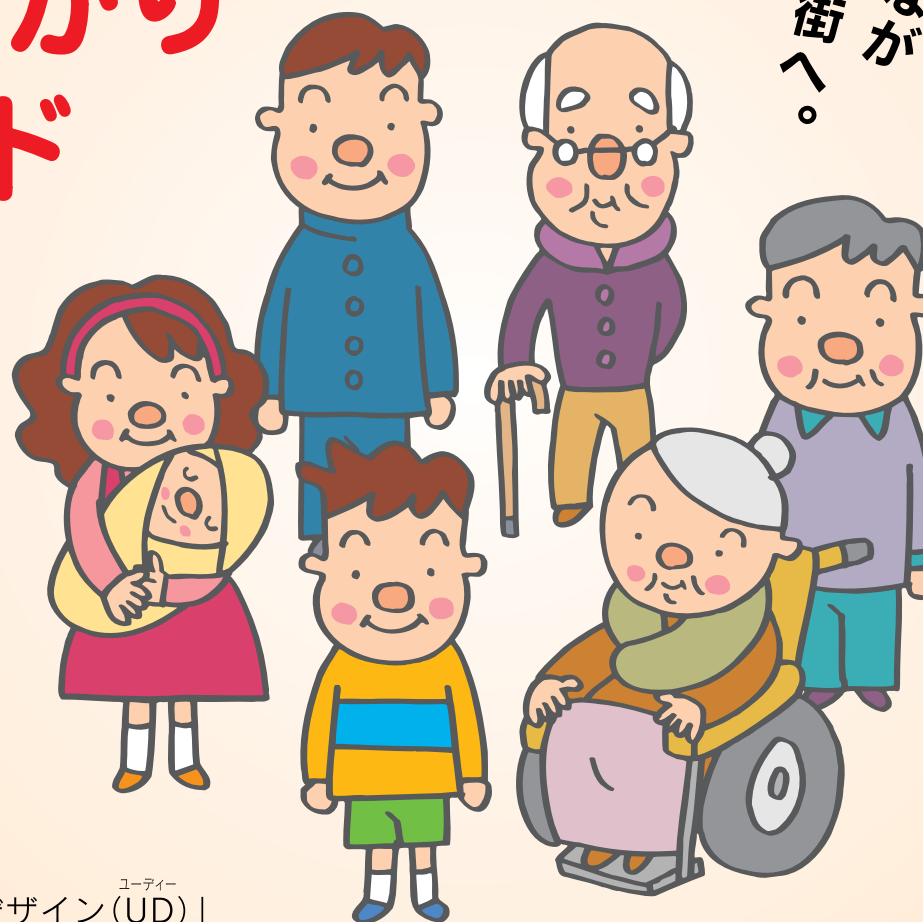
Eメール kikaku2@beige.ocn.ne.jp



ユニバーサルデザイン



早わかり
ガイド



みんなが暮らしやすい街づくりをすすめています。

「ユニバーサルデザイン(UD)」

という言葉聞いたことがありますか。

それは、アメリカで始まった“すべての人のためのデザイン”という考え方です。

いま熊本県では、ユニバーサルデザインの考えのもと、小さな子どもからお年寄りまで、

また男の人も女の人も、身体の不自由な人もそうでない人も、

みんなが暮らしやすい街づくりをすすめています。

熊本県



ユナイター
UDなるほど
日記 ①

暮らしの中で 気づいた「あれ？」。

それは、ある朝のことだった。

いつものように、眠たそうに新聞を開くお父さん。

でもその日は、何度も目をこすって確かめながら

「あれ、読みやすいぞ。①」

なんて言い出したのである。

のぞき込んでみると「あれ？」確かに何か違う。

そう、前の日の新聞より文字が

大きくなっていったのだ。

食事中、お母さんに

その理由を聞くと、

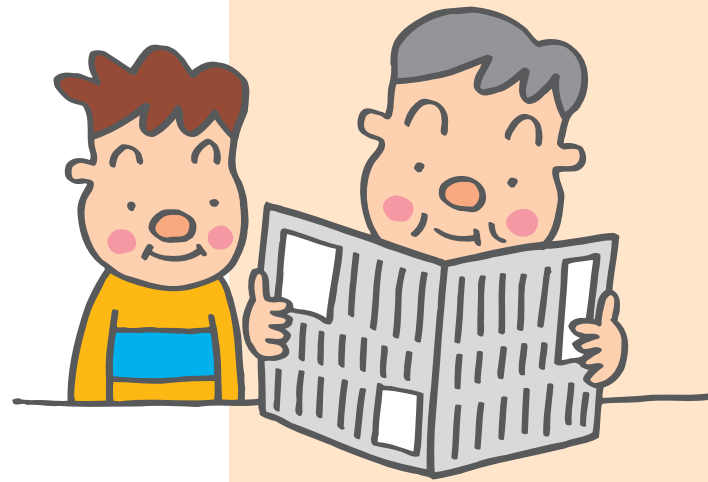
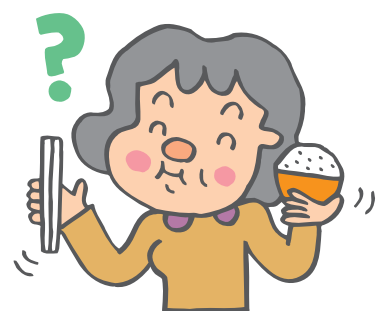
口をもぐもぐさせながら

「オー、ワタシ、ワカリマセーン。」のそぶり。

日本語の話せない外国人じゃないんだから、ねえ。

でも、身ぶり手ぶりって結構

大事だったりする。



① ちょっと深めよう

新聞が急に読みやすくなったのは、視力の弱い人はもちろん誰もが読みやすく、理解しやすいよう、文字の大きさが変わったからです。

たとえば、テパートなどで見かける大きくてわかりやすい案内表示プレートなども同じ考え方で作られています。



そういえば、テレビでも…

手話を取り入れて

ニュースを伝えてたっけ。②



最近、「あれ？」と

思うことがよくある。

新聞も、テレビ番組も、そのひとつ。

ボクの知らないところで、いろいろ変わってきてる。

そして、それはどうやら、いい変化みたいだ。

事実、ボクのお父さんなんて、

「あ～、目がラクだ。オレもまだまだ若いなあ。」

「良かった！メガネ買わずに済んだ。」と喜んでいる。

きっと、ほかにも

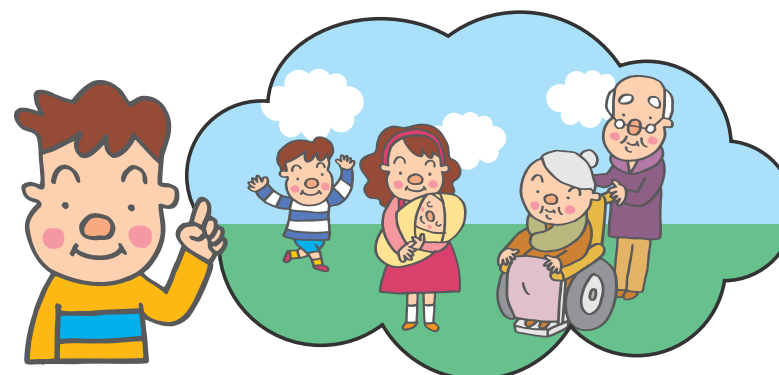
同じように感じている人っているよね。

うん、大勢の人たちがうれしくなるような工夫か…。③

じゃあ、ボクがうれしいことも、

どこかに隠れてるのかな？

よーし。いろいろ見つけてみよーっと！



② ちょっと深めよう

出演者がただ話すだけでなく、手話の同時通訳を取り入れたり、また、状況を説明する大きな文字を画面下に入れたり、副音声を流したりするテレビ番組が増えてきました。これも、耳や目の不自由な人が理解しやすいよう工夫されているのです。

③ ちょっと深めよう

これまで身のまわりの多くのものや施設は、若くて健康な人が使うことを前提として作られ、また、それを不便と感じるお年寄りや身体の不自由な方のためには、その方たちに合ったものが別に作られてきました。



しかし、本格的な高齢社会を迎える今、もっと多くの人たちを対象にものづくりができないか、という考え方が生まれました。それを「ユニバーサルデザイン」と言います。誰かが不便と感じるようなものは最初から作らない。つまり、年齢や性別、障害の有無などに関係なく、誰もが使いやすいように作ること。みんながうれしくなるような、暮らしやすい街づくりをめざす考え方なのです。

ボクの「うれしい！」 も見つけたよ。

暮らしの中のうれしい変化に気づいたボクは、
家の外でも探してみることにした。

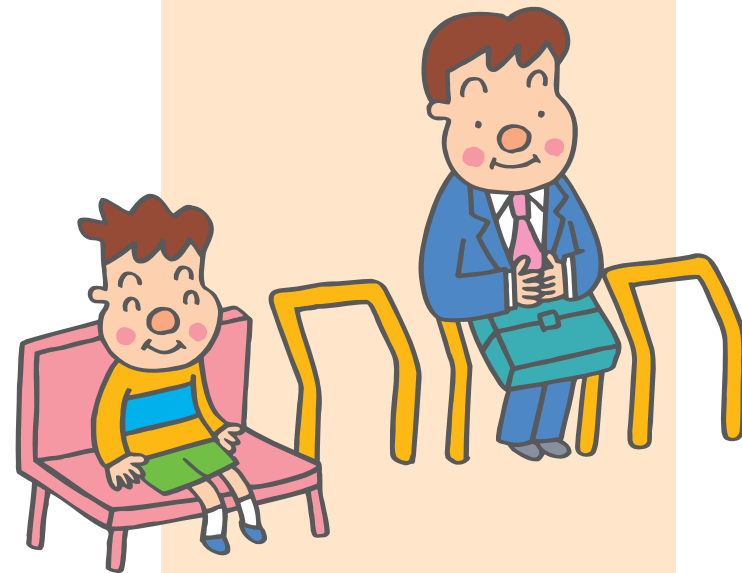
いつもは見慣れた道も、よく見ながら歩くと
ちょっと変わって見えてくる。

あれ、あんなところにオモチャ屋が！
なんて、この「うれしい！」はちょっと違うか…。

結局、遠くの公園まで歩いてやっと見つけた。
水飲み場で、水を飲もうと口を近づけたときだ。
「あれ？」なんだか飲みやすい。

顔を上げてみると、**高い位置に
もうひとつ飲むところがあった。**①

ん…？ 飲む人の背の高さを
考えてくれてるのかな？ だって、
低い方がボクは飲みやすいもん。
うん、きっとそうだ。ヤッタ、これだ！



① ちょっと深めよう

公共の施設などにある水飲み場
はいろんな人が使うもの。そこで、
高い位置と低い位置の両方に
飲むところを設け、子どもや車
いすの方にとっても使いやすく
してあります。たとえば、ボタン
が低い位置にもあるジュースの
自動販売機も同じ考え方。
なかには、硬貨が一度に入れら
れる受け皿や、缶を置く台が付
いているものもあります。



水を飲み終えてベンチで休んでいると、
おじさんがやってきた。
ボクが席を空けると、「いいよいよ。」と言って
となりの**パイプみたいなものに腰掛けた。**②

あれはベンチなのかな？
不思議に思って、聞いてみると
「寄りかかって休むベンチなんだよ。」

そっちのベンチだと、おじさん立ち上がるのが
おっくうになっちゃうんだ。」と教えてくれた。
「じゃあ、これはおじさんにとってうれしい工夫だね。」
そう言うと、おじさんは「うんうん。」とうなづいて、
「向こうを見てごらん。」と図書館の入り口を指さした。

高校生のお兄さんとベビーカーを押す女の人。
最初はなんのことかわからなかったけど、
考えてみたら、なるほど、**階段とスロープの違いだ。**③
自分にとってラクな方を選べるってこと。

ベビーカーを持ち上げて
階段を上るなんて大変だもんな。
いつもは階段を使う人だって、
ゆるやかなスロープが
いいときもあるわけか。
使う人の状況によって、
便利さって変わってくるんだね。



② ちょっと深めよう

お年寄りなど、足腰の弱い人は
一度深く腰掛けてしまうと立ち
上がる時に、かなりの力を必要
とします。ちょっと寄りかかれ
るベンチや、高さのあるベンチ
なら、休めるだけでなく、ラクに
立ち上がることができるのです。

③ ちょっと深めよう

車いすの方にとって階段は大
きな障害。でも、ゆるやかなス
ロープ(傾斜のある道)があれば
ひとりでも自由に行き来ができ
ます。また、広く考えればベビ
ーカーを押す人、松葉杖を使う人、
お年寄りにとっても同じことが
言えます。使う人にとってラク
な方を選べる環境づくりで、さ
まざまな人たちが利用しやす
くなるのです。



ユナイター
UDなるほど
日記 ③

みんなが幸せになれますように。

すっかり「うれしい！」探しの名人になったボク。おじいちゃんの家遊びに行ったときも、いつものように聞いてみた。

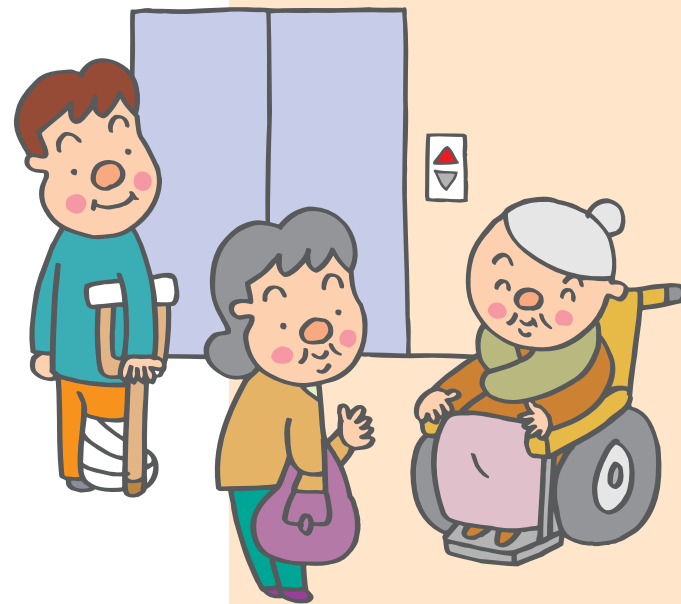
「ねえ、最近ふつうに生活してて何かうれしいなって感じたことあった？」

すると、「うーん…」と考え込んでから、おばあちゃんが思い当たることを話してくれた。

「ほら、駅でエレベーターが使えてうれしいじゃない!」①

おじいちゃんも、それを聞いて思い出した様子。

やっぱり年をとるにつれて、階段の上り下りがつらくなるんだそうだ。いつもは階段を使うボクだって、いつエレベーターが必要になるかわからない。だからこそ、こういう暮らしの中のうれしい変化は身体からだの不自由な人はもちろん、みんなの“安心”につながるんだね。



① ちょっと深めよう

車いすの方が駅の階段を上るとき、今までは周囲の助けを必要としていました。そのことは外出を消極的にさせる要因になっていたかも知れません。その点、エレベーターならひとりでも乗ることができ、まわりの人に気を使う必要もありません。

しかも、ベビーカーを押す人、大きな荷物を持った旅行者やお年寄りをはじめ、より多くの人たちが便利を共有できるのです。



「さあさあ、一緒にお風呂に入ろうか！」

おじいちゃんは、ボクと一緒に**お風呂**に入るのをすごく楽しみにしてるんだって。

その日はお風呂に入るなり「これだ！」と声こゑを響かせた。

「この手すりと取っ手。」② これがなかったら

出るときひと苦労だよ。うんうん！」

そう、これがおじいちゃんの

「うれしい！」だったわけだ。

ボクはシャンプーの途中とちゆうで、

目を開けられなかったけど

おじいちゃんの

うれしそうな顔が思い浮かんだ。



そのときだった。「あれ？」

このシャンプーのギザギザはなんだ？

よく見てみると、リンスには付いてなかった。

これも何か意味のある工夫なのかな？

そっか、目をつむったままでも、触ればどっちかわかる！

「こんなところにもうれしい工夫が隠れてるなんて…。」③

なんだか、ボクはとっても幸せな気分になった。

暮らしの中で、みんなが使いやすい工夫が

どんどん増えていくといいな、と思う。これからも、

もつともつと、みんなが幸せになれますように。

② ちょっと深めよう

浴室や浴槽内はすべりやすく、お年寄りなど足腰あしこしの弱い人にとってはとても危険な場所。手すりがあるだけで安全性はグンと高くなります。立ち上がるときも、取っ手が身体への負担をやわらげます。ほかにも、足腰あしこしの弱い人にとってうれしい工夫は、キッチンの下に空間があること。車いすの方はもちろん、妊婦さん、お年寄りなど、座ったままでもラクに家事をこなせるのです。



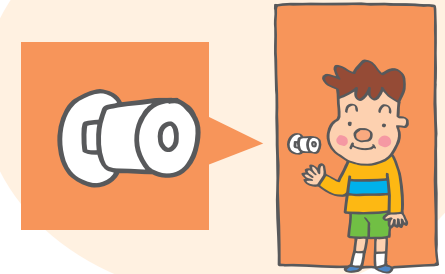
③ ちょっと深めよう

道路や交通機関に始まり、住宅やインテリア、さらには身のまわりの小さな道具ひとつにいたるまで…。多数派に合わせるのではなく、使う人を中心に考えたものづくり、環境づくりをめざすこと。それがユニバーサルデザインです。かといって、とくに認定制度にんていせいどがあるわけではありません。大切なのは、使う人や使う状況によって選択できる広い視野を持ったデザインであることです。言い換えれば、今現在の自分の立場だけでなくあらゆる状況や場面、そして自分以外の人の立場も想定して物事を考えてみること…。そう、みんなを思いやる気持ちこそがユニバーサルデザインの基本なのです。

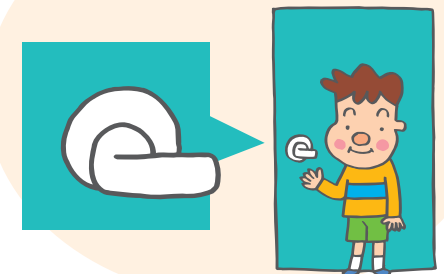
どちらがよりUD的か、 みんなで考えてみよう!



まわすタイプの取っ手

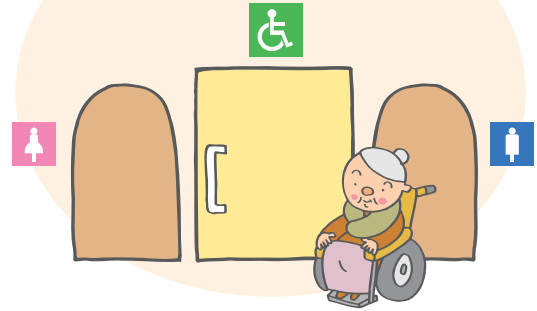


レバータイプの取っ手



どちら

車いす専用トイレ



だれ 誰もが入れる多目的トイレ



どちら

黄色い点字ブロック



歩道になじんだ色の点字ブロック

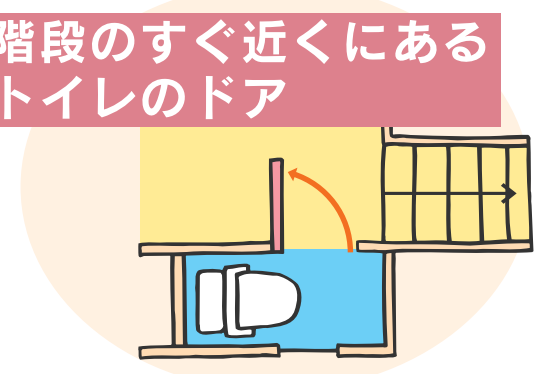


どちら

階段から少し離れたトイレのドア



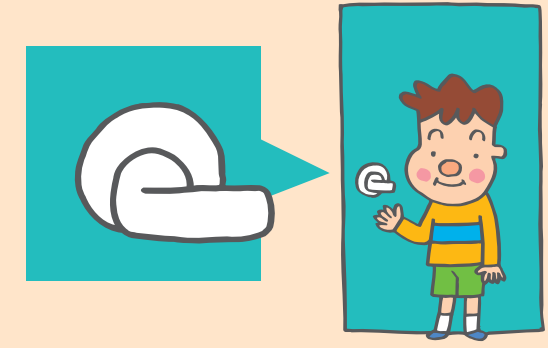
階段のすぐ近くにあるトイレのドア



どちら

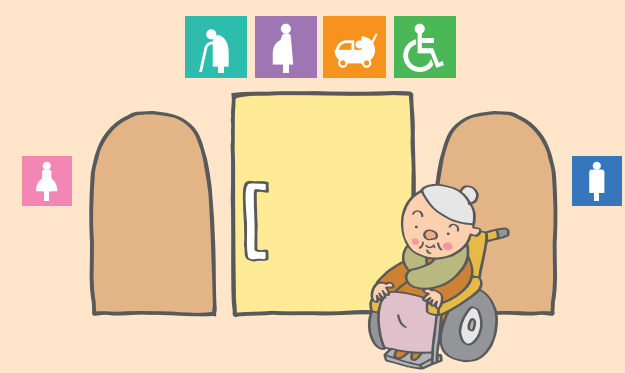
レバータイプの取っ手 UD

回すタイプは手でしっかりつかむことが前提となりますが、レバータイプなら、つかめなくても大丈夫。押し下げのだけです。手をケガしている人や握力の弱い人、さらには荷物を両手に抱えている人でも、簡単に開けることができます。



だれ 誰もが入れる多目的トイレ UD

車いす専用として特別に用意してしまうより、だれ 誰でも入れるよう工夫された広いトイレの方が使い勝手も良く、普通に気軽に使えます。また、赤ちゃんのおしめを替える台や赤ちゃんを座らせるいすを設ければ、用途も広がるのです。



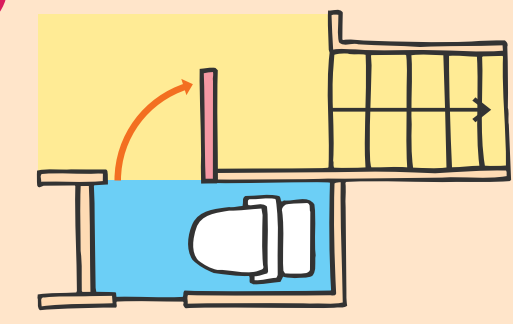
黄色い点字ブロック UD

見た目だけで言えば、グレーの点字ブロックの方が美観をそこねないし、きれいかも知れません。しかし、なかには、ブロックだけでなく“色”を頼りにしている人もいます。黄色のように、歩道の色とはっきりちがう方がより見やすく、安全な場合もあるのです。



階段から少し離れたトイレのドア UD

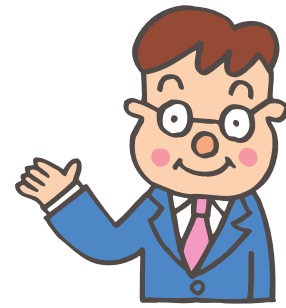
年をとるとトイレに行く回数が増え、反射神経もにぶってきます。また、小さな子どもや、大人でも考え事をしていると注意力が散漫になるので、ドアの位置や開く方向は、なるべく危険を避けた作りがベスト。特に階段近くにあるトイレなどは、注意が必要です。



さあ、熊本から世界へ UDを発信していこう。

ユーティ

UDを発信していこう。



～熊本県、ユニバーサルデザインへの取り組み～

熊本県では、平成12年6月に公表した県総合計画『パートナーシップ21くまもと』の中で、ユニバーサルデザインを県全体の運動としてさまざまな分野に幅広く取り入れ、「誰もが暮らしやすく豊かな熊本づくり」をめざすこととしました。

みなさんも、まずは身近な家庭や地域を自分なりに見つめなおすことから始めて、「誰もが暮らしやすく豊かな熊本づくり」に一緒に参加しませんか。

これまでの 取り組み



熊本県ユニバーサルデザイン研究会 (平成12年8月～11月)

多くの関係団体の方々と県職員、さらには自ら参加希望のあった県民の方々をメンバーにして、それぞれの立場でこれから熊本県内で何ができるかを一緒に考えました。



熊本ユニバーサルデザイン国際シンポジウム (平成13年1月)



国内外から多数の先生をお招きし、講演やグループ研究などを通して県民の方々に

UDへの理解を深めていただきました。あわせて、UDを取り入れた暮らしやすく、豊かなこれからの熊本づくりを一緒に考えました。



インターネット博覧会

「インパク」(平成12年12月31日～1年間)

国が開催するインパクにて、UDをテーマにパビリオン(ホームページ)を開設中。ここで、「熊本県ユニバーサルデザイン研究会」や「熊本ユニバーサルデザイン国際シンポジウム」の内容もご覧になれます。(詳しくは裏表紙をご参照ください。)

県内の 事例



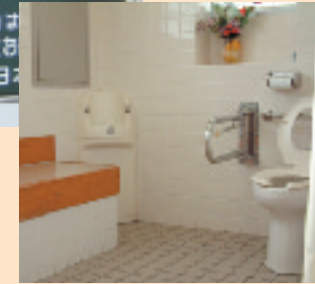
段差のない お店の入り口

車いすの方などが、スムーズに出入りできるよう、段差をなくす工夫をしています。



だれ にんぶ 誰でも入れる多目的トイレ

車いすの方だけでなく、お年寄り、妊婦、小さな子どもを連れた方まで、みんなが気軽に便利に安心して使えるよう工夫されています。



ちようていしやう 超低床電車

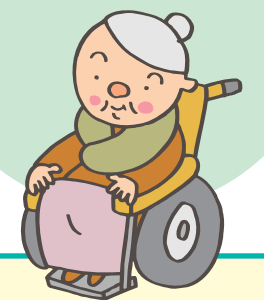
乗車口に段がないので、車いすの方も、重い荷物を持った方も乗り降りがラク。座席や手すりは、ひと目でわかるよう、まわりのものとはっきり色分けされています。



スロープのあるプール

プールの中までゆるやかなスロープを設けることで、自分で身体に負担をかけず安全に水に入れるようにしています。

これからの 取り組み



ユニバーサルデザインを進めるための 指針づくり

UDを県民の方々や企業・団体の方々が一緒に、県全体の運動としてさまざまな分野で取り組みを進めていきやすいように、目標や方向性を明らかにする指針を県民の方々などの声を反映してつくっていくこととしています。

ユーティ UD教室開催

UDをより身近な問題として考えていただくため、実例をまじえた講義やグループ研究による学習会を県内各地で開催。地域ごとに、UDをすすめていくリーダー(ボランティアなど)を育てていくこととしています。